

武庫川総合治水対策の効果量（試算）

対策施設		効果量	主な試算条件	
流域対策	学 校	検討済 12m <sup>3</sup> /s	対象箇所：114箇所 治水容量：38万m <sup>3</sup> （青野ダム流域以外の流域内のすべての学校） オフサイト貯留（敷地内の降雨をグラウンドに集水し、オリフィス構造でピーク降雨をカットする）	
	公 園	検討済 2m <sup>3</sup> /s	対象箇所：80箇所 治水容量：13万m <sup>3</sup> （青野ダム流域以外のすべての公園127箇所から選定） 公園（開設）面積0.1ha以上（公園内のため池が公園面積の多くを占めるものは除外） 基本的にオフサイト貯留、大規模なものは地形状況によりオンサイト貯留（グラウンドに降った分だけ貯留）	
	た め 池	検討済 57m <sup>3</sup> /s	対象箇所：108箇所 治水容量：140万m <sup>3</sup> （満水面積5,000m <sup>2</sup> 以上、流域面積0.1km <sup>2</sup> 以上、青野ダム流域以外、水深1m分だけ治水利用）	
	水 田	検討済 28m <sup>3</sup> /s	対象面積：1,539ha 治水容量：192万m <sup>3</sup> （貯留水深は畦畔高上げ無しで15cmに設定、面積は圃場整備面積から減反面積、本地率（実際に作付け出来る面積）を考慮し設定）	
	防災調整池	検討済 12m <sup>3</sup> /s	対象箇所：176箇所 治水容量：147万m <sup>3</sup> （流域内のすべて）	
	森 林	検討済 数値化しない		
	各戸貯留・雨水浸透型施設	検討済 数値化しない	以下の対策を進めるが、洪水時における効果が保証されないため。 （浸透施設） 流域内の50,000戸に浸透ますを設置した場合、効果量は9.72m <sup>3</sup> /sとなる。（概算値であり対策施設の箇所等の特定ができない） （各戸貯留） 各戸に雨水貯留タンクを設置し、治水活用として利用	
	そ の 他 （駐車場、棟間、大規模開発）	検討済 数値化しない	対策を進めるが、効果量の数値を算出するのが困難であるため、数値算入はしない。	
河川対策	洪水調節施設	遊水地 （1）結果として湛水	検討済 0m <sup>3</sup> /s ~ 39m <sup>3</sup> /s	数値化しない 上流域農地、掘削無し、面積：108.3ha（13箇所）、治水容量：451万m <sup>3</sup>
		（2）公共施設・都市施設	検討済 0m <sup>3</sup> /s ~ 43m <sup>3</sup> /s	-1 -1中流域公共施設、掘削、面積：5.3ha（1箇所）、治水容量：22万m <sup>3</sup>
		（3）河川施設	検討済 42m <sup>3</sup> /s ~ 228m <sup>3</sup> /s ~ 298m <sup>3</sup> /s	中流域に1箇所設置（面積：12ha 治水容量：30万m <sup>3</sup> 掘削有り） 中流域に2箇所設置（面積：64.1ha 治水容量：205万m <sup>3</sup> 掘削有り） 中流域に3箇所設置（面積：77.3ha 治水容量：273万m <sup>3</sup> 掘削有り）（3箇所個々の調節容量A：77m <sup>3</sup> /s、B：152m <sup>3</sup> /s、C：74m <sup>3</sup> /s）
	利水ダム	今後検討 0m <sup>3</sup> /s ~ 417m <sup>3</sup> /s	採用しない 6つのダム（青野ダム：116m <sup>3</sup> /s、深谷池：11m <sup>3</sup> /s、山田ダム：12m <sup>3</sup> /s、千苅ダム：189m <sup>3</sup> /s、丸山ダム47m <sup>3</sup> /s、川下川ダム42m <sup>3</sup> /s）を2m水位低下 治水転用	
	新規ダム	今後検討 0m <sup>3</sup> /s ~ 637m <sup>3</sup> /s	採用しない 洪水調節容量：1,125万m <sup>3</sup>	
	河道対策	ケースA	甲武橋地点3100m <sup>3</sup> /s（河道分担量）	河床掘削のみでほぼ流下能力の確保が可能である。
		ケースB	甲武橋地点3500m <sup>3</sup> /s（"）	ケースAと比較して低水路拡幅幅が増加するが、引堤は部分的である。
ケースC		甲武橋地点3700m <sup>3</sup> /s（"）	ケースBと比較して低水路拡と引堤が若干増加する。	
ケースD		甲武橋地点4400m <sup>3</sup> /s（"）	他のケースと比較して低水路拡幅と引堤が大幅に増加する。	

効果量は H16モデル降雨を対象とした数値である。（甲武橋地点、青野ダム有りのケースから各流域対策施設により流出抑制された流量を示している。）  
各対策施設の単独効果量である。  
現時点（H18.3.21）での試算値である。